

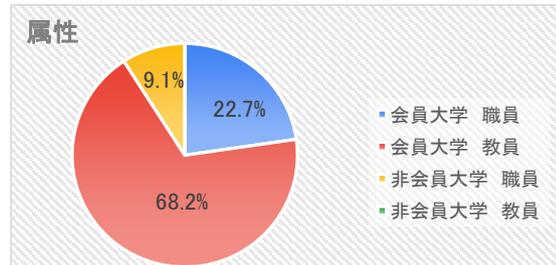
2021年度 第3回Salon De大学コンソーシアム大阪
 「これからの学習支援を考えるーアカデミック・アドバイジングの観点から」
 参加者アンケート集計結果

回答者数22名/参加者数25名 回収率88.0%

1. 回答者について

会員大学 職員	5
会員大学 教員	15
非会員大学 職員	2
非会員大学 教員	0

22

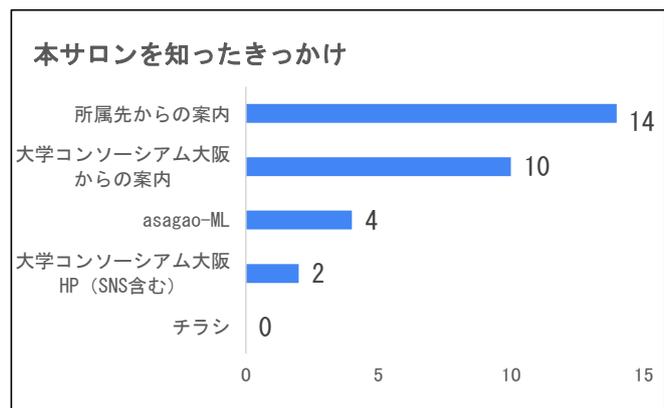


2. 本サロン全般について

(1) 本サロンを知ったきっかけ(複数回答可)

所属先からの案内	14
大学コンソーシアム大阪からの案内	10
asagao-ML	4
大学コンソーシアム大阪HP(SNS含む)	2
チラシ	0

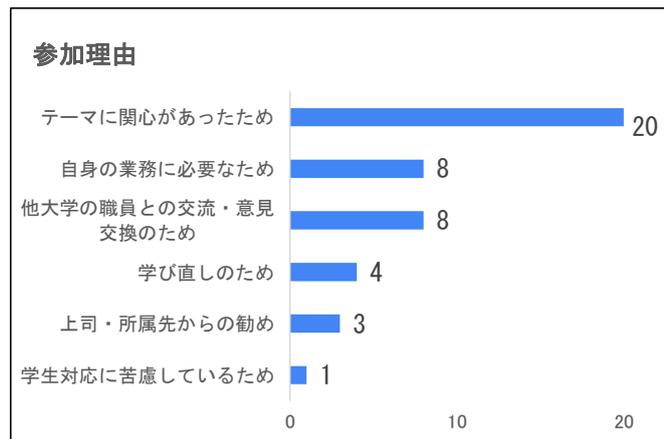
30



(2) 参加理由(複数回答可)

テーマに関心があったため	20
自身の業務に必要なため	8
他大学の職員との交流・意見交換のため	8
学び直しのため	4
上司・所属先からの勧め	3
学生対応に苦慮しているため	1

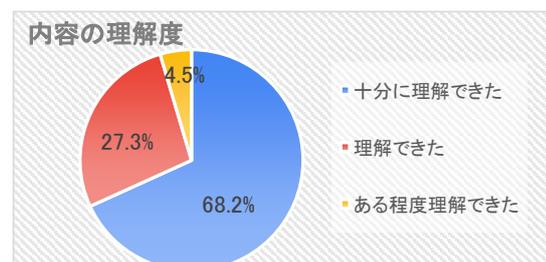
44



(3) 内容の理解度

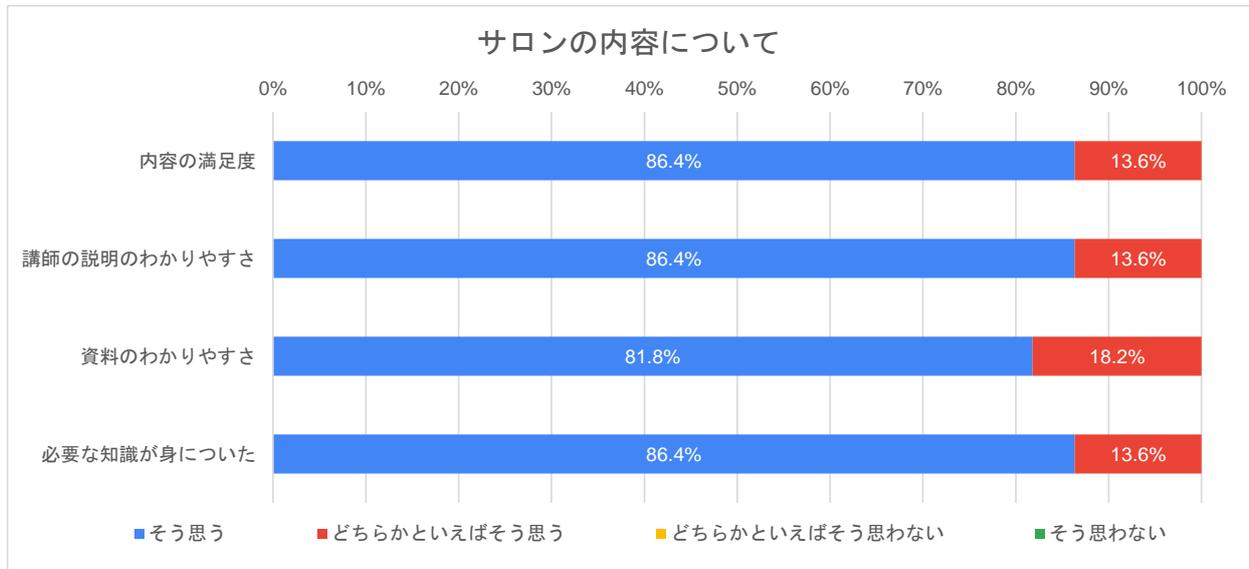
十分に理解できた	15
理解できた	6
ある程度理解できた	1
あまり理解できなかった	0

22



(4) サロン内容について

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
内容について満足しているか	19	3	0	0
講師の説明は理解しやすかったか	19	3	0	0
提示・配布された資料は分かりやすかったか	18	4	0	0
必要な知識を身につけることができたか	19	3	0	0



(5) 開催時期について

適切	21
他の曜日・時間帯が良い	1

22

【希望する時間帯】

もう少し早い(17時までに完了、職場で参加可能)か、もう少し遅い(19時から、職場から出て確実に自宅たどり着く時間)



(6) オンラインでの開催について

参加しやすかった	22
参集型の方が良かった	0
どちらともいえない	0
その他	0

22



(7)本サロンに参加して良かったと思われる点

アカデミックアドバイジングのイメージを整理することができた。
『アカデミック・アドバイジング』について、より一層理解することができた。
他の先生の取り組みが分かったことで自分自身を振り返ることができた。
日常的に課題があるとは感じていながら立ち止まって考える機会、この問題についての専門的な知見を知る機会がなかったため、大変参考になった。
他大学でのアカデミック・アドバイジングの実践例を知ることができた。周辺大学でのアカデミック・アドバイジングのあり方について知ることができた。
アカデミック・アドバイジングとは何かについて、また、アドバイジングのために各大学でどのような方法が取られているのかについて知ることができた。アドバイジングに関して専門職を設けていたり、担当のために研修が行われていたりする大学もあることなど、知らなかったことが多くあった。自分の所属大学においては各教員がアドバイザーを担当しているが、着任1年目で学則や学内の部署についてよく理解していないうちから担当することになるにもかかわらず、相談内容が多岐にわたるため、どのような場合にどこへつなぐべきなのか等、研修が行われるとよいのではないかという気付きを得られた。
COVID-19が与えた影響として今まで主流であった対面による学習支援に加え、オンラインによる学習支援のそれぞれの良さを活かして今後は学生支援に繋げていくことが重要であると改めて思った。またアカデミック・アドバイジングの歴史のあるアメリカの大学の最近事情を知れて良かった。大規模の大学の場合、オンラインのバーチャル受付でアドバイジングスタッフだけではなく、ピアアドバイザーによる夜間の対応、Facebookによる情報提供等は形を変えて日本の大学でも今後実施できるものではないかと思った。アカデミック・アドバイジングのスキルを学べる研修会を希望します。
清水先生からのご講演、そして質問の回答を直接伺うことができ、大変有意義だった。清水先生から事例を紹介していただいたが、さらに多くの大学で実践されていることを知り、自大学に合ったアドバイジングを考える必要があるということも学べた。まずは本学の実情や課題の把握からしっかりと行い、現在学内にある学生相談室やキャリア、学生支援部門の職員ともコミュニケーションをとっていきたいと思う。
学生が4年間でいい成長ができるように、無理のない範囲でサポートしたいという気持ちが高まった。個人では限界があるので、大学全体で連携しながら取り組んでいく体制づくりが必要なのだと思う。
学生1人ひとりをもっと丁寧に支援していかなければと思い、良い学びになった。
登壇者の先生の説明がとても分かりやすかった。また話を聞くだけでなく実際に参加者とBreakout roomで話し合う時間があったことが特によかった。
サロン終了後の懇談会で自由な意見交換ができたこと。むしろこちらの方が「サロンの」だった。

(8)本サロンをより良いものとするための提案

グループワークを少なくして講義の時間を増やしてもよいのではないかと思います。
グループで話す時間がもう少し長いと嬉しい。十分に話すことができなかった。
できれば、もう少し長く清水先生のお話およびディスカッションの時間があれば、より理解が深まったのではと思った。
学生に登壇者にする回があってもよいかと思う。

(9)上記以外の感想や意見

他大学の方たち(自学の方もおられました)と共通の課題をお話できる時間は貴重だったと思う。
清水先生のお話は、今後の学びの質を決める重要な内容を含むもので大変参考になり、色々課題を頂いたように思った。
清水先生に時間内でお礼を申し上げることができませんでしたが、事前に提出していた質問に対して、時間を取ってお答えくださり、ありがとうございました。受講方法の選択肢について、学生がどのように感じているのか、という観点にはなるほどと感じた。引き続き、授業方法について試行錯誤を続けていきたいと思う。
コロナ禍が始まったときに、学生対応で学内中が大変だったことを思い出した。教職員で乗り越えたことで団結力は高まった気がする。かつて清水先生が大阪樟蔭女子大学でお話くださったアカデミック・アドバイジングの内容が活かされたのだと思う。ありがとうございました。

(10)今後、本サロンで取り上げてほしいテーマ

リメディアル教育。
学習障害を持つ学生への対応、LGBT。